

神奈川県ビリヤード協会 -理事会 議事録-

2026.1.21 12:00～ 14:05 Zoom 会議

参加者：安藤・田口・荻原・板橋・黒岩・石井・杉万



| 1

議論内容：

1. 神奈川選手権を開催の可否について
2. BCペアマッチ（仮称）の開催の可否について
3. CSカードに関する今後の方針について（決議）
4. 年間スケジュール（案）について

議題 1 神奈川選手権を開催の可否について（説明：黒岩）

背景説明

- NBAから、2026年の「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（旧プレ国体・宮崎）」が中止となること、代表者会議の議事録公開により正式に共有された。
- これにより、例年実施している「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（キャロム）神奈川予選」が、2026年は開催されない状況となる。
- 神奈川における最高位の大会が無くなることについて、参加を目標にしている選手にとっては残念に感じるのではないかという問題意識がある。
- そこで代替案として、「第1回 神奈川選手権大会（キャロム）」を新設し、今後毎年開催することを検討したい。
- そのうえで、都道府県選手権大会が開催される年については、神奈川選手権の優勝者に代表枠を特典として付与する形にできないか、という提案をしたい。

公益性・リソースの観点（板橋）

- NBAは公益社団法人であり、KBAはその支部として活動している以上、人的・予算的リソースはまず公益活動に優先的に割くべきだと考えている。
- 現在、藤沢総合高校への授業支援、新たに話が出ている老人ホームへの講師派遣、新村岡市民センターへのビリヤード台寄贈検討、さらには神奈川県教育委員会への働きかけなど、公益活動として取り組むべき案件が複数同時に動いている。
- そうした状況の中で、新たに神奈川選手権という大会を立ち上げ、継続開催していくことについては、現状では明らかにリソースが不足していると感じている。
- 仮にリソースに十分な余裕があるのであれば開催自体を否定するものではないが、今はそのような状況ではない、という認識である。

実績・継続性の観点（石井）

- 昨年度、青森開催となった「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（キャロム）神奈川予選」の参加人数は10名であった。
- この10名という数字自体が、神奈川代表という枠を争って出場している実人数であり、代表枠が無い年に同等、もしくはそれ以上の人数が集まるかという点には正直な不安がある。

- 仮に神奈川選手権を毎年開催する前提とした場合、代表枠が付与される年と付与されない年で参加人数に大きなバラつきが出るのが想定される。
- その結果、「今年は成立したが、翌年は成立しない」という状況が続くと、神奈川選手権という大会自体の信頼性にも影響が出るのではないかと感じている。

私益・大会増加への懸念（板橋）

- 数名の既存競技者の満足度を高めるために、大会を新設することについては、公益社団法人の支部としては慎重であるべきだと考えている。
- 既存の競技者向け大会は、増やせば良いというものではない。
- 私益的な活動が増えることで、本来やらなければならない公益活動に割く時間や労力が削られてしまうことは避けるべきである。
- その意味でも、現時点で新たな神奈川選手権大会を立ち上げることには賛成できない。

議論の整理と方向性

- 提案された「選手のモチベーション維持」という視点については、一定の理解が示された。
- 一方で、
 - 参加人数の実績
 - 継続開催の不安定さ
 - 公益活動との優先順位
 - 現在の人的・予算的リソース状況
 これらを総合的に考えると、今の KBA として新規大会を立ち上げるのは現実的ではない、という意見が多くを占めた。
- 「やりたい気持ちは分かるが、今はタイミングではない」という整理が共有された。

結論

- **神奈川選手権大会（キャロム）の新設は見送る。**
- **全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会が開催される年についてのみ、従来どおり神奈川予選を実施する。**

女子級 神奈川選手権大会の開催可否について（黒岩）

- キャロム同様、ポケットの女子級についても「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会 神奈川予選」が開催されない年が出てくる。
- そのため、女子についても神奈川独自の選手権大会を開催することで、出場機会を確保できないかという提案をしたい。

参加実績・現実性の観点（荻原）

- 年度によって多少の差はあるが、昨年度に実施した青森開催の「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（女子級）神奈川予選」の参加者は 3 名であった。
- ポケットの大会で「県の選手権大会」として実施する場合、他県や関東大会では 64 名枠が埋まる規模で開催している例が多い。
- 関東全体で見れば女子選手は集まる可能性があるが、神奈川県内単独でその規模を想定するのは現実的ではないと感じている。
- 仮に 64 名枠を用意したうえで、半分も集まらないような大会になった場合、結果として「KBA として無理をした大会」という印象を与え、協会の評価を下げてしまう可能性があるのではないかと懸念がある。
- また、KPBA 側も今年度はスケジュールがかなり詰まっており、新たな大会を立ち上げるとなると、KPBA 内部でも改めて調整・協議が必要になる。
- その結果として、主管として引き受けられない、という結論になる可能性も否定できない。

- 会場確保、人員配置、予算確保といった点を総合的に考えると、現時点で女子級の神奈川選手権大会を新設するのは難しいと考えている。

議論の整理

- 女子選手の出場機会を確保したい、という提案の趣旨自体については理解が示された。
- 一方で、
 - 過去の参加実績
 - 規模と実態の乖離
 - 協会としての体力
 - KPBA 側のスケジュール事情
 これらを踏まえると、新たに女子級の神奈川選手権大会を立ち上げることは現実的ではない、という意見が共有された。
- キャロム同様、「開催できない年が出る大会」を無理に作るよりも、従来の予選方式を維持した方が整理しやすい、という方向で意見がまとまった。

結論

- **神奈川選手権大会（ポケット・女子）の新設は見送る。**
- **全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会が開催される年についてのみ、神奈川予選を実施する。**

都道府県選手権予選の同時開催に関する意見交換（石井）

経緯の共有

- 元 TPA で、現在 NBA 理事を務めている松元氏より、昨年の段階で以下の大会について「1 都 3 県で同時開催できないか」という話を聞いた経緯がある。
 - ~~全日本アマチュア9ボール選手権大会（予選）~~ **理事会にて誤りの指摘を受けた**
 - ~~※県知事杯優勝者特典~~
 - ~~全日本アマチュアポケットビリヤード選手権大会（予選）~~ **理事会にて誤りの指摘を受けた**
 - **全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（予選）正しい（認識の訂正）**
- 神奈川については、2025 年はすでに県知事杯の優勝者特典として進めてしまっているため、その時点では同時開催は難しいとして断った。
- 2025 年の都道府県選手権予選が、実際に 1 都 3 県で同時開催されたかどうかは把握できていない。
- 2026 年以降については、明確な方向性は示されておらず、現時点ではペンディング扱いとなっている。
- 今後、県知事杯の特典と切り離すのかどうかも含め、方針を整理する必要があると感じている。

事実関係の整理（荻原）

- 上記 2 大会については、神奈川では毎年予選会を実施している。
- 松元理事の話は、「全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会」の予選に関するものであり、その点については**認識の訂正が必要**である。
- 都道府県選手権大会の出場枠については、A 級は「県知事杯優勝者枠」と「KPBA 枠」の 2 枠となっている。
- 開催日を揃えることについて、松元理事と正式に協議した事実はなく、「できたら良いよね」というレベルの話聞いたことがある、という認識である。

対応姿勢の整理（板橋）

- NBA からの正式な要請であれば、まず事務局宛に文書として正式に依頼を出してもらい、その内容を踏まえたうえで理事会で協議すべきである。
- 現段階では正式な依頼ではなく、協会として積極的に同時開催を目指す必要はないと考えている。

議論の整理と結論

- 現時点では、NBA から正式な依頼や方針提示があったとは言えない。
- そのため、同時開催を前提とした調整や準備を進める段階ではない、という認識が共有された。

結論

- **本件は正式な依頼として受け取らない。**
- **同時開催を目指すことはせず、次年度以降も現状どおりの運営を継続する。**

議題 2 BC ペアマッチ（仮称）の開催可否について（安藤）

企画概要

- 正会員からの意見を取り入れたうえで、（仮）店別対抗 BC 戦の大会要項案を作成した。
- 開催概要は以下のとおり。
 - 開催日：2026年3月8日（日）
 - 会場：A-1
 - 集合時間：11:00／開始：11:20
 - 募集数：16チーム（32名）
 - 出場費：1チーム4,000円（当日集金）
 - CSカード不要、非公式イベントとして実施
 - 全試合3ラック先取
 - CC／CB／BB のペア編成に応じてハンディボールを設定
 - 賞典として、記念撮影、店舗向け持ち回りのトロフィー等を検討している
- 現行の「わかばカップ」は廃止し、このイベントを実施していきたいと考えている。
- まずはパイロットプランとして1回実施し、うまくいけば2回目以降も継続、場合によってはAクラスも参加可能な形に発展させていくなど、柔軟に内容を変えていきたい。
- 将来的には、県西部で1回、秋頃に横浜方面で1回実施し、さらに形になれば年明けに「神奈川で一応一番を決める」ような位置づけまで発展させる構想もある。

企画自体への評価・CSカードへの違和感（板橋）

- パイロットプランとしてこのイベントを実施すること自体については賛成できる。
- ただし、KBAとしてはCSカードを将来的に廃止する方向でNBAと向き合っている立場である。
- その中で、賞典としてCSカードを設定することは、対外的に「CSカードを普及させる活動」と受け取られかねず、その点に違和感を感じている。

わかばカップとの位置づけ・整理の必要性（石井）

- 本イベントは非公式イベントとしてCSカード不要としているが、わかばカップも「C級・ビギナー層のすそ野を広げる目的」の活動としてCSカード不要で実施してきた経緯がある。
- 今回のイベントがBCのイベント、さらに将来的にABCのイベントへと広がっていくことを想定しているのであれば、「わかばカップはC級ビギナー層のすそ野を広げる活動」という大義名分が薄れてしまうのではないかと感じている。
- そうなった場合に、「なぜこの大会もCSカード不要なのか」という説明が難しくなり、トラブルにつながる可能性がある。
- そのため、CSカード不要で実施するのであれば、その整理や説明を事前にしておいた方がよいのではないかと感じている。

継続性・トロフィーの考え方（板橋）（杉万）（崎村）

- ABCバトルは単発企画という位置づけだったが、今回はトロフィーの持ち回りを想定しているということは、ある程度継続開催を見据えているイベントだと受け取っている。

- パイロットプランとして 1 回で終わるのであればそれでも良いし、先を見据えるのであればトロフィーを用意する考え方も理解できる。
- いずれにしても、「1 回限りなのか」「継続前提なのか」をある程度意識した整理が必要だと思う。

CS カード制度そのものへの踏み込み（板橋）

- CS カードについても、例えば「B 級は CS カード必須、C 級は不要」といった整理の仕方もあり得る。
- KBA が主催する、神奈川県内で完結する大会について、出場資格として CS カード取得を求めることには違和感がある。
- 参加者から見れば、理由の分からない負担を課されているように感じるのではないかな。

成功・失敗の判断基準（石井）

- このイベントが「成功した」「失敗した」という判断を、どこに置くのかを事前に整理しておきたい。
- 例えば、
 - 参加人数が少なくても参加者満足度が高ければ成功なのか
 - 定員いっぱい集まれば成功なのか
- どの点を重視して、2 回目・3 回目を実施するかを判断するのか、その基準を共有しておいた方が良いのではないかな。

評価の考え方（板橋）

- 評価は 1 回目ではなく 2 回目で判断すべきだと思っている。
- 1 回目は「様子見」で出てくる人も多いが、2 回目のエントリーが集まらなければ失敗と考えるべき。
- デフォルトで「2 回目までを 1 パッケージ」と考え、2 回目が成立しなければ失敗、という整理の方が分かりやすい。
- 今から成功条件を細かく決めるよりも、まず走らせてみて、次につながれば成功、人数やクレームが一定基準を超えたら失敗、という考え方で良いと思う。
- クレームが多ければ、事務局から「もうやれない」と言ってもらえばよい。

広報方法（石井）

- ポスターは作成するのか、という点について確認したい。

広報の考え方

- この要項をそのまま各店舗に配布する形でも良いし、簡易的なポスターを作って集客する形でも良いと思っている。（安藤）
- 題名・イラスト・開催日時程度を載せ、「詳細は要項参照」という形のポスターであれば対応可能ではないかな。（板橋）

広報表現の注意点（板橋）

- 初回開催のイベントなので、ポスターに細かいことを書きすぎない方が良い。
- 詳細を詰めすぎると、かえってクレームの対象になりやすい。
- 「開催します」という事実と、詳細参照先だけ示して、ある程度逃げ道を作っておく方が無難だと思う。

集客の考え方（安藤）

- 今回の企画は、正会員の意見を取り入れて作った大会である。
- そのため、集客についても、正会員が主体的に声掛けをしてくれるのではないかと考えている。
- ポスターを見て初めて知るというよりも、事前に正会員間で情報共有され、声掛けによって参加が広がる形を期待している。
- ただし、開催地が小田原であるため、参加できる店舗がある程度限られる点や、開催店舗からの出場が多くなりすぎないように配慮は必要だと感じている。

決定事項（開催の可否）

- 議論の結果、
 - パイロットプランとして実施すること
 - 実施したうえで評価・見直しを行うこと
 については概ね合意が得られた。

決定事項

- BCペアマッチ（仮称）はパイロットプランとして開催する。

CSカード賞典についての補足発言（安藤）

- 神奈川県としてはCSカードを廃止したいという考えを持っている一方で、今回賞典としてCSカードを選んだことについては、言っていることとやっていることが違う、と見られる可能性がある点は理解している。
- ただし、プレイヤーにとって何が一番喜ばれるかを考えた結果として選択したものであり、その点については理解してもらいたい。

代替案（板橋）

- CSカード相当額であれば、現金支給という選択肢もある。
- ただし、協会側から直接CSカードを用意するより、現金で支給して各自で手続きしてもらった方が、総会等で説明しやすい。
- KBAとしてはCSカード廃止を目指しているという姿勢は、今後も選手に伝えていく必要がある。

運営体制・役割分担（石井）

- 要項以外にも、抽選、組み合わせ、エントリー方法、受付方法など、事前準備すべき事項は多い。
- 誰が何を担当するのかを明確にしてもらえれば、事務局として対応可能な範囲がはっきりする。

体制について（安藤）

- 運営と企画は正会員側で進めたいが、抽選やエントリー受付などについては事務局に協力してもらいたい。
- 担当割については早急に作成する。
⇒ 役割分担が明確になれば、事務局として対応可能である。（石井）

収支・赤字リスク（崎村）

- 赤字にならない大会にできるのかが一番の懸念である。
- 32名集まれば赤字にならない設計なのかを確認したい。
- 赤字の大会を増やしても意味がない。

⇒収支の考え方（安藤）

- 今回の会場費は開催店舗であるため、通常より抑えた金額設定が可能。
- トロフィー代を捻出するため、会場費を調整している。
- 他店舗開催の場合は、通常の規定に沿った会場費設定が必要になると考えている。

⇒継続性への懸念（崎村）（杉万）

- 今回限りで終わる可能性がある大会で、高額なトロフィーを用意することには疑問がある。
- フォトスタンドなど、簡易な記念品でも良いのではないか。
- 継続開催を前提にするのであれば、他会場開催時も含めて収支が成立する形に整理すべきだと思う。

パイロット評価（板橋）

- まず 1 回実施し、どの程度の赤字・黒字になるのかを把握したうえで、次回以降のエントリーフィー等を検討すればよい。
- トライアルとして実施すること自体には意味がある。

実施の意義（安藤）

- 神奈川県としてポケットの試合を増やしていく必要性は感じている。
- 加盟店から「試合が少ない」という声もあり、何かしら行動を起こすことが重要だと考えている。
- ダメな点は改善していく前提で、まずは実施したい。

タスク

- **安藤が、運営・企画および担当割を早急に作成する。**
- **役割分担が明確になったうえで、事務局は割り当てられた作業を担当する。**

議題 3 CS カードに関する今後の方針について（決議要望 板橋）

- 自身は、CS カードについては廃止した方が良いという考えを持っている。
- NBA が CS カードを廃止した場合、KBA としては、将来的に「店舗会員は賛助会員」「個人を正会員」とする形が健全な組織と会員の在り方だと考えている。<※詳細説明は後述>
- この考え方が、板橋個人の意見なのか、それとも理事会として共有されている考え方なのかを明確にしておきたい。
- NBA 総会等の場で発言する際に、理事会としての意思なのかどうかを確認する必要があるため、理事会としての決議を取りたい、との要望があった。

議論の整理

- CS カード制度については、これまでも理事会内で問題意識が共有されてきた。
- 特に、
 - 県内で完結する大会において CS カード取得を必須とすることへの違和感
 - 選手側の負担感
 - KBA として目指す組織の在り方との整合性
 といった点について、共通認識があることが改めて確認された。
- 今回の BC ペアマッチ（仮称）の議論を通じて、CS カードの位置づけについて改めて整理する必要がある、という流れになった。

決議

- 石井が進行役として決議を実施した。
- 採決の結果、**満場一致**で以下の方針が承認された。

結論（決議事項）

- **KBA としては、CS カードの廃止を目指す立場を明確にする。**
- **今後、NBA に対して CS カード廃止を提言していく。**

補足 1（議事録上の位置づけ）

- 本決議は、現時点で直ちに制度を変更できるものではなく、KBA としての基本的な方向性・意思表示を確認したものである。
- 今後の大会運営や対外的な説明においては、本決議内容を踏まえて対応していく。

補足 2 <※詳細説明> 健全な組織と会員の在り方について

他競技における個人会員制度（例：サッカー、バスケットボール、ゴルフ等）は、競技団体が競技環境や公式大会を直接的または間接的に整備・管理しており、個人会員であること自体が「競技者としての登録」「公式競技に参加するための資格」を意味している。

すなわち、個人会員制度と競技参加資格、競技環境の提供が一体となった構造となっている。一方で、ビリヤード競技においては、競技の場は主として民間のビリヤード店舗が提供しており、協会は競技環境そのものを保有・管理しているわけではない。

日常的な練習環境や競技の機会は、各店舗の努力と負担によって成り立っているのが実態である。このような構造の中で、CSカードは形式上「個人会員登録」とされているものの、

- ・登録をしていなくても日常的な競技活動は可能であること
 - ・登録の主な意味合いが「一部大会への出場資格」に限定されていること
 - ・登録により競技環境や指導、サービス等の直接的な還元が明確でないこと
- といった点から、他競技における個人会員制度とは性質を大きく異にしている。

結果として、CSカードは「競技者登録」というよりも、「大会参加のための通行証」として受け止められやすく、個人に恒常的な費用負担を求める制度としては、構造的な違和感を生じやすい仕組みとなっている。

こうしたビリヤード競技特有の構造を踏まえると、競技環境を物理的・継続的に支えているのは店舗であり、協会の活動理念や方針を支える主体としては個人が位置付けられる、という整理の方が実態に即していると考えられる。

そのため、将来的な組織の在り方としては、店舗は協会活動を支援する「賛助会員」として位置付け、個人は協会の意思決定や方向性を担う「正会員」とする構造の方が、公益性・説明責任・現場実態のいずれの観点からも整合性が高く、より健全な組織運営につながると考えられる。

議題 4 2026 年度 年間スケジュール（案）について（石井）

年間スケジュール案の考え方

- ・ スケジュール作成にあたっての基本的な考え方は以下のとおり。
 1. すでに日程が確定している主要イベント
（全日本ジュニア、県知事杯、レクリエーション大会等）を優先して確定する。
 2. 他支部と連携して実施する、期日が固定されているイベント
（エキサイト等）の日程を確定する。
 3. KPBA や他団体の大会日程と可能な限りバッティングしないよう候補日を選定する。
 4. イベントが特定時期に集中し、事務局の負荷が過度に高くないよう配慮する。
- ・ これらの方針を前提に、2026 年度の年間スケジュール（案）を作成した。

意見交換

- ・ 提示されたスケジュール案について、日程の重複や大きな問題点は特に指摘されなかった。
- ・ 現時点では本案をベースに進めて問題ない、という認識が共有された。

結論

提示された候補日に異議はなく、2026 年度 KBA 年間スケジュール（案）は承認された。

以上